

# 平成29年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年 4月 9日
研究・研修課題名	「睡眠医療認定検査技師」 資格取得試験
研究・研修組織名 (所属)	検査部
研究・研修責任者名 (所属)	石飛文規 (検査部)
共同研究・研修実施者名 (所属)	

## 目的及び方法、成果の内容

### ① 目 的

日本睡眠学会「睡眠医療認定検査技師」認定試験を受験するための資格を取得する。睡眠医療の普及と向上を促すことを目的として、日本睡眠学会は「睡眠医療認定検査技師」および「睡眠医療認定医療機関」を認定する制度を設けている。当院は、「睡眠医療認定機関」であるため、その認定の更新にはできる限り常勤の「睡眠医療認定検査技師」の在籍が求められている。今回の目的は、「睡眠医療認定検査技師」認定試験の受験資格の一つとなっている日本睡眠学会定期学術集会に出席し、「睡眠医療認定検査技師」受験資格を取得することである。

本資格を取得し、睡眠障害検査の診断能を向上させることにより、質の高い検査サービスを提供できる。また、「睡眠医療認定検査技師」の存在は睡眠医療認定医療機関の認定更新の条件となっており、当院にとってもメリットが大きいと考える。

### ② 方 法

日本睡眠学会 第42回定期学術集会に出席した。

日時：6月29日(木) 8:00~17:00

6月30日(金) 8:00~17:00

場所：パシフィコ横浜

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

出席したプログラム内容

#### ● 6月29日(木)

9:00 ~ 11:00 S-1 「臨床 PSG 精度管理—システム構築の可能性—」

11:50 ~ 12:40 LS5 「睡眠研究の過去・現在・未来」

12:50 ~ 14:30 ポスターショート 「SAS」

14:40 ~ 16:40 S-3 「睡眠医療における遠隔医療」

#### ● 6月30日(金)

8:30 ~ 10:30 S-13 「睡眠呼吸障害と心血管系の関係を自律神経の面で再考する」

10:40 ~ 12:20 ポスターショート 「睡眠障害」

12:30 ~ 13:20 LS13 「PSG 自動解析装置の評価と今後の活用法」

14:40 ~ 16:40 WS-4 「みんなで考えよう、PSG 判定困難例およびアーチファクトの原因と対策」

### ③ 成 果

日本睡眠学会第42回定期学術集会に出席し、「睡眠医療認定検査技師」認定試験の受験資格を得た。

第42回定期学術集会において開催されたプログラム中から、主に PSG の精度管理、PSG のアーチファクトといった日常の PSG 検査に関わる技術的な要素をテーマとするシンポジウムに出席した。

また、平成30年4月より新設される予定である「在宅患者持続陽圧人工呼吸療法遠隔モニタリング加算」をテーマとするシンポジウムに出席した。

## PSGの精度管理

臨床 PSG の精度管理をテーマとしたシンポジウムであり、PSG 精度管理のシステム化が今後構築可能かどうかを考える良い機会となった。日本 PSG 研究会が実施した、共通データを用いた施設内判定精度の多施設間調査の結果、①AASM2007 基準よりも R&K 基準の方が技師間の一致率は低く、②施設内の一致率に比べて施設間の一致率は低い傾向であることが分かった。一致率が低くなる原因として、覚醒・体動後の判定や徐波成分の割合判定が影響していた。また、一つのステージの不一致が、後に続くステージの一致率にも影響を与えることがわかった。

発表にあった一致率低下の原因の中には、本院における PSG 検査においても当てはまる要因もあり、本施設あるいは自身の睡眠段階に関する判断状況を客観的に把握することができた。PSG の精度管理を行うことは、施設間差の是正や個人の判定レベルの向上につながるものと考えられる。

## 睡眠医療における遠隔医療

在宅患者持続陽圧人工呼吸療法(以下、CPAP とする)の現状と、CPAP の遠隔医療をテーマとするシンポジウムであった。諸外国より数年遅れてはいるが、日本においても CPAP の遠隔モニタリングによって患者の診療が行われはじめている。近年、病状が安定している慢性期患者に対し、連絡・対応体制を確保した上で、遠隔モニタリングシステムを用いて患者管理を行うことは患者側の利点が大きいことが明らかになり、社会要請にもなってきている。さらに、「HOT 及び CPAP 療法について、安全性、有効性等についてのエビデンスを確認した上で、患者の利便性向上や医療従事者の負担軽減の観点から対面診療を行うべき間隔を延長することも含めて、遠隔でのモニタリングに係る評価」が期待されていた。そのような中、厚生労働省は平成 27 年に「患者側の要請、患者側の利点を勘案した上で、直接の対面診療と適切に組み合わせられるときは、遠隔診療によっても差し支えない」とし、平成 30 年 4 月からは「在宅患者持続陽圧人工呼吸療法遠隔モニタリング加算」の新設が予定されている。

CPAP 治療継続中の患者は全国で 40 万を超えていると考えられており、過去 3 年間には約 4 万人ずつ増加を見ている。使用患者中、最も多い年齢層は 40 歳から 59 歳である。なお、20 歳から 59 歳までの働き盛りの世代の患者が占める割合は対象患者の 50%を上回る。このような背景もあり、CPAP と遠隔医療の組み合わせは、「医療アクセスの改善」を前提として、「CPAP 導入期における治療アドヒアランスの向上」、あるいは「医療費・労力の軽減」が達成されると考える。